

東通りの整備促進

〔登別市・継続〕

■ 現状と課題

本路線は、登別市の行政や商業・業務の中心地である幌別中央地区から住宅地を北西部に縦貫する道路であり、常盤町、中央町及び柏木町の住民が、幌別中央地区や公共施設等に向かうための唯一のアクセス道路として重要な役割を果たしており、児童生徒の通学路としても指定されておりますが、現状は歩道がなく道幅も狭いため大型車両の通行の際、非常に危険を伴っております。

また、近年宅地開発された北西部では、若年層を中心に住宅建設が進み、行政人口の減少傾向が続く中にあるは地区内人口を維持しており、年少人口率が他の地区よりも高く、高齢化人口率も低いことや、空地率が高く今後も住宅建設が進み、将来的にも交通需要が増加するものと推察されます。

現在、胆振総合振興局から平成24年度道道昇格要望選考結果において、道道昇格の内示があったところです。



通学路としてたくさんの児童が歩行するが、歩道がなく道幅も狭いため大型車両が通行すると非常に危険である。



■ 要望内容

● 東通りの道道認定及び拡幅整備

【全体計画】

登別市中央町4丁目5番地先～
登別市常盤町4丁目48番地先
施工延長 約1.2km 幅員 16m

■ 事業効果

- 道路の拡幅により、一般車両及び大型車両、緊急車両のスムーズな交通が図られる。
- 歩道の整備が行われることにより通学する児童生徒の安全が確保され、より良い住民生活の充実が図られるとともに、大津波における高台の避難場所への避難に際し、より安全な避難路が確保される。